



## 先の見えない 政策には限界

朝地町池田  
森 成元

高度成長時代とバブルの崩壊で中央政権の舵取りは、危うくなっています。

平成の大合併で町村の数は減りました。「限界集落」という言葉を聞くようにもなりました。地域を守るために行政ばかりに頼るのではなく「人任せではいかん。自助努力の精神が大切」といっても限界があります。

社会は、政策で変化してきたことは事実です。働き場の少ない周辺部の若者は出て行き、やがては集落の維持が困難となって消滅します。行政は、それもやむを得ないこととするならば、地域を守り、子育てに頑張り、世に送り出した高齢者が安心して過ごせる政策こそ、望まれているのであります。

市議の皆さんが、厳しい国策の下で、議会活動に邁進されておられることも垣間見えますが、「今どこも一緒に…」と片付けるのではなく、先進地視察などは差し置き、全員が揃って周辺部の実態を隈なくご覧になり、豊後大野市の共有の認識として、市政に反映されることを望み、周辺部の維持管理に精進しています。

◇ 3月定例会は  
3月上旬に  
開会予定です。

詳しくは議会事務局  
(TEL22-1001)へ  
お問い合わせください。

### 広報編集 特別委員会

委員長 赤嶺 謙二  
副委員長 渡邊 一 文  
委員 宇藤 正 宏  
委員 小野 順 哉

## 町民になって よかった

大野町屋原  
原田 とも子



大野町に帰ってきて、早7年。この地で自分らしく、毎日、生き生き、楽しく暮らそう。私がそんな生活をしていたら、きっと自分の息子もやがてこの地に帰ってきてくれるのだろう。主人がそうしたように。

住み始めてみたら、大野町、魅力あるものがたくさんあった。向原のツバキ、満天の星空、畑から直送の野菜、そして何よりも年輪を重ねて元気に暮らしている人々。

そんな良さを伝えたくて始めた、農家民泊。おかげさまで今年は10軒になった。皆がもてなしの心を伝えていったら、やがて、それが大きな力になっていくことだろう。

今年は、高規格道路が大野町まで開通します。チャンスです。近くにある道の駅では、定期的に朝市が開かれ、中からは、おいしいパンの匂いがし、オープンテラスでは、おじいちゃん、おばあちゃん、若者たちの集う、笑顔の絶えない、そんな道の駅になってほしいと強く願っています。



▲ 三重高校生、OB、三重総合高校生のみなさん

## 神楽の里

五穀豊穡 願いを込めて  
花の舞台で 君が舞う  
右手で鳴らす 鈴の音ひびく  
ドンドンヒヤララ ピーヒヤララ  
豊後大野の 神楽の里に  
無病息災 願いを込めて  
吹く横笛で 君が舞う  
姫の仕草に 艶も漂う  
ドンドンヒヤララ ピーヒヤララ  
豊後大野の 神楽の里は  
家内安全 願いを込めて  
叩く太鼓で 君が舞う  
暴れ荒神 子どもが叫ぶ  
ドンドンヒヤララ ピーヒヤララ  
豊後大野の 神楽の里で

※ 昨年11月、西宮神社三重神楽社の  
発足40周年記念祝賀会がありました。  
市内には、伝統芸能である神楽が約  
20団体あります。大切にしたいもので  
すね。(A)